

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2019年度 第1号

事務局：〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 橋本健一研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2019年8月2日発行



ご案内

KELES・JASELE関係のイベント 2019 夏・秋

梅雨が明け、いよいよ夏本番。「夏休み」というには慌ただしい日々ではございますが、関西英語教育学会（KELES）・全国英語教育学会（JASELE）では、年次大会や各種セミナーが開催されます。遠方で開催されるものも含まれますが、ご興味・ご都合に応じてご参加いただけましたら幸いです。

全国英語教育学会 第45回弘前研究大会

日時：2019年8月17日（土）・18日（日）

会場：弘前大学 文京町キャンパス

特別公演

The Task-based Lesson

Dr. Rod Ellis (Curtin University)

シンポジウム

日本の英語教育の将来：英語教育における

「主体的、対話的で深い学び」とは何か？

コーディネーター：長崎政浩（高知工科大学）

パネリスト：和泉伸一（上智大学）

太田洋（東京家政大学）

峯島道夫（新潟県立大学）

その他フォーラム・ワークショップ・研究発表等盛りだくさんのプログラムです。詳細は大会ウェブサイトをご覧ください。

<http://jaselehirosaki.sakura.ne.jp/JASELEHirosaki2019/index.html>

全国英語教育学会主催

大学入学共通テストにおける英語4技能評価の意義と課題に関するシンポジウム

日時：2019年8月31日（土）午後2時～5時

会場：千葉大学 けやき会館

提案者

松沢伸二（新潟大学）・投野由紀夫（東京外国語大学）・木村裕三（富山大学）・津久井貴之（お茶の水女子大学附属高等学校）

要事前申込：下記URLから参加申込フォームに入って、必要事項を入力して事前申込を行ってください。事前申込の締切は8月24日（土）です。当日参加も可能ですが、開催会場では事前申込をされた方が優先されます。

<https://forms.gle/FwdGGvuaPk6ERMsD9>

関西英語教育学会 第46回KELESセミナー

日時：2019年10月6日（日）

会場：大阪府内予定

テーマ：英米文学と英語教育の接点（仮）

講師：玉井 史絵（同志社大学）

安田 優（関西外国語大学）

詳細は随時KELESウェブサイト（keles.jp）でお知らせしてまいります。ご予約いただけましたら幸いです。

報告 関西英語教育学会2019年度（第24回）研究大会

開催日：2019年6月15日(土)・16日(日) 会場：大阪教育大学 天王寺キャンパス

2019年6月15日(土)・16日(日)に、大阪教育大学天王寺キャンパスを会場に、第24回研究大会が開催されました。今回は、KELES単独では3年ぶりの2日間開催となり、門田修平先生によるご講演をはじめとして6件の企画ワークショップ、研究発表・事例報告が7件と盛りだくさんの内容となりました。約130名の方がご参加くださって、発表時だけでなくアフタヌーンティーの会場でも、講師の先生方や発表者と活発な議論を繰り広げるなど、本年度も盛会となりました。

ご発表くださった皆様、講師をお引き受けくださった先生方をはじめ、参加してくださった皆様、展示協賛の企業の皆様、スタッフとして活躍してくださった会場校大阪教育大学の学生さん、事務スタッフの方々に心から感謝申し上げます。なお、当日のプログラム等の詳細については、年次大会特設ウェブサイト (<https://sites.google.com/view/keles2019>) をご覧ください。

企画ワークショップ

「国際英語の視点からの語彙・文法指導」

藤原 康弘（名城大学）

英語は世界各地に拡がり、その普及に伴い、様々な言語・文化と接触し、あらゆる面で多様性を示す言語となっている。本ワークショップでは、国際英語を論じる際に用いるEIL/WE/ELFという視点から、具体例を示しながら、語彙・文法指導についてわかりやすいお話を伺った。

まず、現存する最大規模の英語辞書であるオックスフォード英語辞典は、World Englishesのスタンスを明確に示し、世界各地の英単語を積極的に掲載していること、WEやELFのコーパスが利用できること、英語の語彙・文法の多様性が研究されていることなどが紹介された。

高等学校学習指導要領では、言語材料の使用は

「現代の標準的な英語による」としながら、「様々な英語が国際的に広くコミュニケーション手段として使われている実態にも配慮する」とされていることが示され、中高の学習指導要領に従った英語指導における目標を踏まえつつ、これまでの言語リソースや研究成果を活用し、世界（特にアジア）の英語の多様性（variety/variation）が具体的に示された。また、その知見をいかに中高の英語授業に活かすかを動画を用いて具体的に説明してくださった。

英語教育においては、「国際的に広くコミュニケーション手段として使われている様々な英語」を「現代の標準的な英語」と照らし合わせ、どの程度許容するのかに大きな関心が寄せられる。藤原先生はその点での質疑応答にもかなりの時間を割いてくださった。学習指導要領にあるように、英語でのコミュニケーションを図る資質・能力を育成することが目標とされる中で、英語の使用実態を念頭に置きつつ語彙・文法指導を行う上で、非常に有意義なワークショップであった。

（報告者：近畿大学 照井 雅子）

「英語教師のための実践研究法：自身の実践を対象に研究を行うためのポイント」

藤田 卓郎（福井工業高等専門学校）

このワークショップでは、実践研究をする上でのポイントについて、グループワークを通して、参加者が実践研究への理解を深めていくように構成されていた。その中で大きく三点、①実践研究とは何か、②実践研究のコツ、③実践研究の進め方についてのお話があった。

①に関しては、理論は理論、実践は実践として線引きをして考えるのではなく、理論と実践の往還を志向した研究をしていく重要性について述べられた。具体的には、授業者が知りたいことと問題に思っていることに焦点が当たっているかどうかのポイントになると説明されていた。②については、担当している授業やその様子をグループワークで共有した後、質的・量的データの取り方、問いの立て方、問いはどこから生まれるのか、そのための振り返ることの大切さについて、実践研究を深めるための方

策のお話があった。最後の③では、例としてジャーナルライティングが挙げられていた。授業を記録することで頭の中が整理され、次のアイデアが思い浮かび、それを見返すことで自身の変容が感じられるというのがジャーナルライティングの効用である。更には、「まとまった時間は永遠にこない」ので、研究に割り当てる時間を決める、毎日少しずつ実行するなど、研究者としての藤田先生の心構えについても語られていた。

記録者もグループワークに参加したが、大学の先生より実践を共有する機会が少ないという声や、高校の先生からはこうした研究法を初めて知ったという声があった。それぞれの先生が、明日から実践できる研究法の紹介であっただろう。

(報告者：神戸市立工業高等専門学校 南 侑樹)

「英語プロソディ指導のミニマムエッセンシャルズ」 大和 知史 (神戸大学)

参加者の音声指導・発音指導の状況は様々であったが、音声指導・発音指導の際に教員として知っておくべき多彩な情報が整理されて示され、理論に基づいた具体的で実践的な指導法をご紹介いただいた。

英語プロソディを体系づける「ミニマムエッセンシャルズ」として、大和先生による3つの原則をご紹介いただいた。①母音のあるところに拍がくる、②拍が2つ以上になれば、強弱を、③強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせるというものだ。

プロソディの指導例として、日本語を英語らしく、あるいは英語を日本語らしく発することで、音節・強勢・イントネーションなどの違いを体感する「わざと変に言う」活動(原則①)、余計な母音が入っていないかどうかを意識させるために、ハミングをさせる活動(原則①②)、教員がWH Questionを用いて文章の内容について質問し、学習者にフルセンテンスで答えさせ、質問の内容に応じて適切な箇所に核配置できるか試す活動(原則③)等を挙げられた。紙幅の都合で、理論に裏打ちされた豊富な活動事例のすべてを紹介できないのが残念である。

さらに、音声指導・発音指導を教材研究の一環として捉えることが示された。新出単語等の確認・導入にリズムパターンや弱アクセントを意識させたり(原則①②)、本文範読・音読・朗読の準備として、発話の切れ目やフォーカスをあてる部分を意識

させ、音調パターンを駆使させる(原則③)ことなどが紹介され、実際の教材を用いて、その内容が具体的に確認できた。

音声指導・発音指導の経験の多寡によらず、すべての参加者に有意義なお話だった。

(報告者：近畿大学 照井 雅子)

「学生・若手にとって魅力的な学会とは？」 名畑目 真吾 (筑波大学)

このフォーラムでは、学生・若手の学会参加に関して、学会をより魅力的にするために何が必要かについて、学会役員を含めた3名の先生からのそれぞれの視点が紹介された後、質疑応答がなされた。

名畑目先生からは、ご自身が運営に携われてきた全国英語教育学会での「大学生・大学院生フォーラム」の企画(例：若手同士の意見交流の場づくり、英語教育の先輩からのランチョントーク、論文執筆セミナーなど)を紹介された。また、他領域も含めた学会全体のこれまでの学生や若手支援の取り組み(例：学生会員の研究大会参加助成金制度、若手の会の設立、キャリア支援、子育て支援のための託児所設置および雰囲気づくり)について幅広い視座からのお話があった。ご講演の中では、オーディエンスにその取り組みについて知っているかといった問いも投げかけられていたが、知らない参加者が多く、広報をすることの難しさを感じているといったお話もあった。また、運営側として、若手が若手のために動いていくだけでなく、ベテランもその活動に対する理解を深めることにより、よりよい学会が生まれていくのではないかとといったご提案もあった。本学会幹事の山形先生からは、学会に参加することのメリットを自身のご体験から発表され、より魅力的な学会のために、学生の発表の場のハードルを下げる(例えば、卒業論文・修士論文などの構想発表会の実施)をご提案されていた。本学会副会長の泉先生はこれまで様々な学会に携わってこられた経験をもとに、学会参加の敷居を下げる(例：オンラインで参加できる仕組みを作ること)や動機づけを促す方策(若手のための学会賞)についてご提案されていた。

質疑応答の場面では、どこまでを研究として認めるべきか、研究会運営に必要なことに関する質問が投げかけられ、より魅力的なコミュニティづくりのための熱心な議論がなされていた。

(報告者：神戸市立工業高等専門学校 南 侑樹)

「教室内での生徒の英語を引き出す教師英語力を考える～教室内教師・生徒英語力評価尺度の活用～」

長沼 君主 (東海大学)

中田 賀之 (同志社大学)

木村 裕三 (富山大学)

本ワークショップでは英語教師の授業での英語使用を改善するために開発された「教室内教師・生徒英語力評価尺度」について、中田賀之先生(同志社大学)、長沼君主先生(東海大学)、そして木村裕三先生(富山大学)に紹介していただいた。

まず、この評価尺度が開発されることになった背景を説明していただいた。中学校や高校の英語の授業は基本的に英語で行うこととなった今、教師は生徒が理解可能な英語で授業を展開する必要があることが再認識されてきており、授業内のより効果的な教師の言語使用を促すために、教師の教室内英語力を可視化して内省させ「専門家としての成長」に繋げることを目的としてこの評価尺度が開発されているということだった。この評価尺度は、4つのタイプの尺度(統合的診断尺度、内省的分析尺度、機能別尺度、タスク別尺度)で構成されており、統合的診断尺度と内省的分析尺度は文法、語彙、発音、指示と説明、生徒とのインタラクションの5つを評価の観点とし、それぞれ4つのレベル(未適格、適格、優良、熟達)からなっていた。

その後この教室内英語力評価尺度を用いた、自分自身の英語指導の内省や、授業実践のDVDにある他の教師の教室内英語力の評価の実践を行った。ここでは特に教師に必要とされる言語機能(誘出、促進、明確化、修正、意見、評価)に着目して、生徒とのインタラクションの重要性、また生徒に合わせた教師英語の調節の必要性について議論した。この評価尺度を効果的に活用することで、教師自身が現在どのレベルに達しているのか、自分に足りないものは何なのかへの気づきを得て、授業改善への大きな一歩とすることができるのではないかと思う。

(報告者:大阪教育大学 内園 大智)

「小学校英語における絵本の活用～CLILの実践を通して～」

諸木 宏子 (A&A ENGLISH HOUSE主宰、八尾市生涯学習センター小学生英語講座講師)

児童が指導者の英語を聞き、絵の助けを借りて「英語を聞いて意味が分かる」体験をすることがで

きる「絵本の読み聞かせ」は、新学習指導要領でも取り扱われている。絵本の読み聞かせをもっともっと効果的にしたい、もっとレパートリーを増やしたい、と日頃から思っていた私の悩みに、諸木宏子先生は応えてくださった。まずは絵本の持ち方、そして子どもの座る位置やページのめくり方、声の出し方など、基本的であるが見落としがちな、大変重要な要素についてお話しいただいた。参加者も実際に本を手に取り、諸木先生の指示に従って折り目をつけて開いたりして、子どもに読み聞かせる時にどのような効果があるかについて議論を深めた。ワークショップの最後には、諸木先生おすすめの絵本をご紹介いただいた。文部科学省配布の教材の各単元に対応した絵本ばかりで、今後活用できそうなものばかりであった。

(報告者:宇治市立三室戸小学校 吉田 真生)

講演

「シャドーイングとL2スピーキング:アウトプット効果に焦点をあてて」

門田 修平 (関西学院大学)

“外国語を話せるようになるしくみ”が分かれば、効率よく学習ができるのではないか。そして、これまで良いとされてきた学習方法に対する科学的根拠を知ることは、我々教員が自信を持ってその練習法を授業の中で実践することに繋がる。

講演の冒頭で、外国語習得には成功させるための4つのポイント(I:インプット理解、P:プラクティス、O:アウトプット産出、M:モニタリング)があり、このIPOMを支え、その学習を促進するのが「シャドーイング」であることが示され、特に、シャドーイングのアウトプット産出への効果に焦点を当てた内容であった。

まずは、日本語及び英語の発話における言い間違いについて、具体例を示しながら分類され、スピーキングには5つの段階(①語彙選択段階、②語彙配列段階、③モーラ・音素配列段階、④文法形態素の設定段階、⑤プロソディ付与段階)があることが説明され、次に、第二言語(英語)における流暢なスピーキングを支える3つの仕組み(①規則にもとづくスピーキング=習った文法知識・規則を利用して、単語を正しく組み合わせる発話、②プライミングにもとづくスピーキング=読んだり、聞いたりして処理した構文を無意識のうちにそのまま活用して文をつくる発話、③フォーミュラ連鎖にもとづくスピーキング=単語と単語の連なりをもとにした

発話) について解説された。①に関しては初めての文でも作ることができるが、②と③に関しては、シャドーイングの反復練習による潜在的な学習が必要であるとのことであった。

また、シャドーイング練習が効果を発揮する段階には2つあり、練習開始直後には「音声コード化」「調音装置」のシミュレーション効果が表れ、シャドーイング自体が自動化し、復唱に関わる認知負荷が軽減されてくると、「語彙文法コード化」「形態音韻コード化」のシミュレーション効果を併せ持つようになるとの仮説に対する様々な先行研究が紹介された。

最後に、「Virtualityがつくる新たな自己」という副題のもと、ミュージカルを活用したvirtual interactionから実践的なコミュニケーション能力を身につける方法の提案があった。「日本語を話すときと英語を話すときで二重人格を目指すよいのでは？」という門田先生のコメントが印象に残った講演であった。

(報告者：大阪教育大学 箱崎 雄子)



報告 2019年度 関西英語教育学会総会

開催日：2019年6月15日（土） 会場：大阪教育大学 天王寺キャンパス

2019年度総会では、南侑樹先生（神戸市立工業高等専門学校・本学会幹事）による司会進行のもと、議長に長谷尚弥先生（関西学院大学）が選出され、2018年度活動報告および決算報告、会計監査報告、2019年度活動計画および予算案などについて報告・提案がなされ、承認されました。

1. 2018年度活動報告

研究大会等

◆ 関西英語教育学会2018年度（第23回）研究大会

日程：2018年6月9日（土）

場所：関西国際大学 尼崎キャンパス

内容：講演1件，研究発表・事例報告12件，企画ワークショップ1件

◆ 全国英語教育学会第44回京都研究大会

日程：2018年8月25日（土）・26日（日）

会場：龍谷大学 大宮キャンパス

〒600-8268

京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会）

担当地区学会：関西地区英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：なし

全国英語教育学会第44回京都研究大会実行委員会担当プログラム：特別講演1件，ランチョン・セミナー4件

セミナー・共催行事

◆ 関西英語教育学会 第44回セミナー

日程：2018年11月2日（金）

会場：大阪府立大学 I-Siteなんば

テーマ：英語教育研究事始め：学部生・院生の学会参加への第一歩

◆ 関西英語教育学会 第45回セミナー

日程：2018年12月23日（日・祝）

会場：龍谷大学 大阪梅田キャンパス

テーマ：英語学の知見を活かした授業実践

◆ 関西英語教育学会 第22回卒論修論研究発表セミナー

日程：2019年2月11日（月・祝）

会場：関西国際大学 尼崎キャンパス

発表16件，ポスター・デモ発表3件

紀要『英語教育研究』

第42号刊行（紀要編集委員会）

課題研究プロジェクト

なし

授業研究プロジェクト

なし

広報・発行

- ・ニューズレター 年4回発行（7月，12月，1月，3月：他メール配信）
- ・紀要『英語教育研究』第42号刊行（紀要編集委員会）
- ・学会会員情報誌『KELESジャーナル』第4号刊行

2018年度決算報告

2018年度の収入・支出は次の表のとおり。原案通り承認されました。

関西英語教育学会2018年度決算報告書(案)

収入の部			
項目	予算額(円)	決算額(円)	備考
前年度繰越金	2,994,827	2,994,827	
年会費	2,500,000	2,602,000	全国英語教育学会年会費も含む
参加費	200,000	114,000	関西英語教育学会第23回研究大会、KELESセミナー(第44/45回)、第22回卒論修論研究発表セミナー、研究大会業者展示
論文集	20,000	10,680	学会紀要SELT販売、論文掲載費
その他	150,000	207,026	全国英語教育学会からの事務局補助費及び広告料返金(再振替のため)及び全国英語教育学会第44回京都研究大会余剰金
計	5,864,827	5,928,533	

支出の部			
項目	予算額(円)	決算額(円)	備考
通信費	487,418	376,538	各種郵送代(学会紀要、ニューズレター、切手代、その他)、HPサーバー管理費、振込手数料
研究費	1,053,323	683,973	講師謝礼、作業補助謝礼、会場費用(卒論修論セミナー)、KELESジャーナル執筆料、大阪高英研広告掲載料、その他
印刷費	856,490	855,922	KELESジャーナル、第21回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集、学会封筒印刷
会議費	13,662	0	
交通費	92,000	229,000	研究大会・セミナー、幹事・理事会、全国英語教育学会の旅費
事務費	6,554	5,588	会議用資料印刷代、名札代
全国年会費	562,000	580,000	2,000円×290名
予備費	0	0	
計	3,071,447	2,731,021	

収入総額	5,864,827	5,928,533	
支出総額	3,071,447	2,731,021	
差引残高(次年度繰越金)	2,793,380	3,197,512	全国英語教育学会第44回京都研究大会余剰金を含む


2019年 6月 15日
 関西英語教育学会(KELES)会計担当幹事
 山形 悟史
 照井 雅子

諸帳簿照合の結果、正確かつ公正に執行され、上記に相違ないことを報告します。

2019年 6月 22日

会計監査

三木 浩平 

斎藤 倫子 

2. 2019年度活動計画

2019年度役員体制

会 長

里井 久輝（龍谷大学）

副会長

泉 恵美子（関西学院大学）

顧 問

沖原 勝昭（京都ノートルダム女子大学名誉教授）

織田 稔（元関西大学）

齊藤 栄二（京都教育大学名誉教授）

瀬川 俊一（京都府立大学名誉教授）

吉田 信介（関西大学）

幹事長（副会長兼務）

橋本 健一（大阪教育大学）

紀要編集委員長

水本 篤（関西大学）

幹 事（7名）

今野 勝幸（龍谷大学）

杉浦 香織（立命館大学）

谷野 圭亮（大阪府立大高専）

照井 雅子（近畿大学）

南 侑樹（神戸高専）

山形 悟史（関西大学第一高等学校）

山本 玲子（京都外国語大学）

理 事（12名）

今井 裕之（関西大学）

大嶋 秀樹（滋賀大学）

加賀田 哲也（大阪教育大学）

坂本 南美（岡山理科大学）

佐々木 顕彦（武庫川女子大学）

高田 哲朗（京都外国語大学非常勤講師）

竹下 厚志（神戸龍谷高等学校）

名部井 敏代（関西大学）

長谷 尚弥（関西学院大学）

平井 愛（神戸学院大学）

牧野 眞貴（近畿大学）

藪内 智（京都精華大学）

紀要編集委員（7名）

佐々木 顕彦（武庫川女子大学）

佐藤 臨太郎（奈良教育大学）

西田 理恵子（大阪大学）

能登原 祥之（同志社大学）

平井 愛（神戸学院大学）

大和 知史（神戸大学）

山西 博之（中央大学）

会計監査（2名）

斎藤 倫子（滋賀県立大学）

三木 浩平（追手門学院大学）

※ 同職位内では50音順

研究大会等

◆ 関西英語教育学会2019年度（第24回）研究大会

日程：2019年6月15日（土）・16日（日）

場所：大阪教育大学 天王寺キャンパス

内容：講演1件，研究発表・事例報告7件，
企画ワークショップ6件

◆ 全国英語教育学会第45回弘前研究大会

日程：2019年8月17日（土）・18日（日）

会場：弘前大学 文京町キャンパス

〒036-8560

青森県弘前市文京町1番地

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道
英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信
越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関
西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四
国英語教育学会・九州英語教育学会）

担当地区学会：東北英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：なし

セミナー・共催行事

◆ 関西英語教育学会 第46回セミナー

日程：2019年9月あるいは10月 開催予定
会場：未定

◆ 関西英語教育学会 第47回セミナー

日程：2019年11月あるいは12月 開催予定
会場：未定
(全国英語教育学会セミナーの可能性あり)

◆ 関西英語教育学会 第48(47)回セミナー

日程：2019年12月22日(日) 開催予定
会場：未定

◆ 関西英語教育学会 第23回卒論修論研究発表 セミナー

日時：2020年2月 開催予定
会場：未定

紀要『英語教育研究』

第43号刊行(紀要編集委員会) 予定

課題研究プロジェクト

「アクティブ・ラーニングを活用した英語授業」(プロジェクト・リーダー：泉恵美子(関西学院大学), 研究期間：2019~2021年度, 3か年)

授業研究プロジェクト

新規プロジェクト1件程度採択予定

広報・発行

- ・学会会員情報誌『KELESジャーナル』2019年度内に第5号を刊行予定
- ・ニューズレター 年4回発行(7月, 12月, 1月, 3月予定: 含メール配信)

2019年度予算案

2019年度の予算案は次の表のとおり。原案通り承認されました。

関西英語教育学会2019年度予算案

収入の部			
項目	2018年度決算額(円)	2019年度予算額(円)	備考
前年度繰越金	2,994,827	3,197,512	
年会費	2,602,000	2,600,000	全国英語教育学会年会費も含む
参加費	114,000	200,000	関西英語教育学会第24回研究大会、KELESセミナー(第46~48回)、第23回卒論修論研究発表セミナー、研究大会業者展示
論文集	10,680	30,000	学会紀要SELT販売、論文掲載費
その他	207,026	150,000	全国英語教育学会からの事務局補助費
計	5,928,533	6,177,512	

支出の部			
項目	2018年度決算額(円)	2019年度予算額(円)	備考
通信費	376,538	650,000	各種郵送代(学会紀要、ニューズレター、切手代、その他)、HPサーバー管理費、振込手数料
研究費	683,973	1,100,000	講師謝礼、作業補助謝礼、会場費用(卒論修論セミナー)、KELESジャーナル執筆料、大阪高英研広告掲載料、プロジェクト経費、その他
印刷費	855,922	900,000	KELESジャーナル、第23回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集、学会封筒印刷
会議費	0	20,000	会議所経費(幹事会・理事会)
交通費	229,000	120,000	研究大会・セミナー、幹事・理事会、全国英語教育学会理事会の旅費
事務費	5,588	10,000	会議用資料印刷代、名札代
全国年会費	580,000	580,000	2,000円×290名
予備費	0	30,000	
次年度繰越金	3,197,512	2,767,512	
計	5,928,533	6,177,512	

学会事務局からのお知らせ

◆関西英語教育学会 学会誌『英語教育研究』 (SELT) 第43号 投稿論文募集のお知らせ

関西英語教育学会 (KELES) では、学会誌『英語教育研究』(SELT) 第43号 (2020年3月刊行予定) への論文投稿を下記の通り募集中です。

2019年度に開催された第24回関西英語教育学会研究大会および全国英語教育学会第45回弘前研究大会での発表論文が優先されますが、これらの発表を経ない論文についても、一定の枠内で審査対象となります。会員の皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

投稿受付期限

2019年8月31日 (土) 22:00 (午後10時厳守)

投稿にあたって

学会ホームページ (<http://www.keles.jp/activity/selt/>) の投稿要領を熟読し、テンプレート (英語・日本語) をダウンロードし、テンプレートに書かれている諸注意も熟読の上、テンプレートを用いて原稿を作成し、学会ホームページの投稿フォームから投稿してください。

掲載論文の種類

投稿論文：英語教育および広く言語教育に関する理論的・実証的研究論文 (10ページ以上20ページ以内)

研究ノート：英語授業実践に関する報告 (10ページ以内)

*いずれもページ数に参考文献、図表、註、資料を含めます。

掲載論文の著作権 (第39号より改定)

掲載論文の著作権は学会に帰属しますが、ウェブなどでの公開にあたっては書誌情報を明記した上で積極的に行えるようになりました。第39号より、J-Stageにて公開を開始しております。(詳細はhttp://bit.ly/selt_jstageを参照してください。)

投稿先および学会誌に関するお問合せ先

(1) 投稿先：学会ホームページ (<http://www.keles.jp/activity/selt/>) の投稿フォームから投稿してください。

(2) 投稿した日から3日以上経っても受領確認のメールが届かない場合は、お問い合わせフォームにて問い合わせして下さい。

◆お問い合わせフォームについて

昨年度よりお問い合わせフォームの不調が続いており、会員の皆さまにはご迷惑をおかけしております。現在Google Formによる代替のフォームを設置準備中です。できるだけ早期に安定運用できるようにしてまいりますので、今しばらくお待ちください。なお、この間の各種お問い合わせ (会員情報の変更等) については、封筒に記載の事務局メールアドレスまでお送りください。

◆メールアドレスの確認について

KELESでは年次大会やセミナーのご案内、研究発表・論文投稿の募集等について、メールでののご案内を積極的に行っております。8月2日 (金) にも名簿に登録がある会員の皆さまにはメールをお送りしています。今後メールによる情報発信の割合を増やしていくことも検討しておりますので、この機会に確認をお願いいたします。メールが届いていないという方は、恐れ入りますがお名前と配信を希望されるメールアドレスをkeles.mailaddress@gmail.comまでお送りください。

◆編集後記

年次大会にご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。秋のセミナーでもお目にかかることを楽しみにしております! (KH)